
優のアルバム・・・

青眼龍

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

優のアルバム・・・

【Nコード】

N0461A

【作者名】

青眼龍

【あらすじ】

隆司と佳奈子の結婚式が終わったあと、ホテルの窓辺で、隆司の元彼女、優のことを佳奈子が聞き始めた・・・だが、その元彼女は謎の病気で亡くなり、それいらい誰にも優との思い出を喋ったことはなかった。しかし、佳奈子だけに優との思い出を語り始めたのだ・・・

第一話：思い出の始まり

隆司が大きな窓を開ける・・・

「やっぱり、夜風はきもちいな・・・」

といいながら、どこか遠くのほうをじっと見ている。

ぼーっとしている隆司に佳奈子が言った。

「もしかして、優さんのこと考えてるの・・・？」

「んっ？い、いやそんなことは考えてないよ・・・」

といいながらも、やはり優という人のことを考えていたことは事実である。

優というのは、隆司が昔愛していたひとの名前である。

「うそ言ってもだめよ！！私だって、隆司と付き合って2年になるんだからうそついてるかぐらいわかるわよ！！」

佳奈子は怒りながらも、心の奥底ではほんとのことを言っただけだと思っただけだ。

そして、隆司が観念したと思い、佳奈子は優という人のことを聞き始めた・・・

「優さんのこと今でも好きなの？」

「そんなことはないよ・・・きつと・・・」

「いつも、優さんのことを聞くとだまっちゃうじゃない・・・私は今日あなたと結婚したのよ？妻として、優さんのこと知りたい」

実は今日、隆司と佳奈子は結婚式をあげたばかりなのだ。

「そうだよな・・・佳奈子は妻になったんだよな・・・」

「それとも、私は優さんのかわりなの？」

「ちがうよ。俺は佳奈子のが好きだ」

「なら、優さんのこと教えてくれてもいいじゃない！！」

「わかった、話そう・・・でも、話が長いけどいいかい？」

「うん」

「優と初めて会ったのは高校1年の入学式の時だった・・・」

[illegible]

「緊張するな……知らない人ばかりだ……」

と言いながら、自分の席と思われるパイプで出来た椅子に座った。そして、隆司の背後から声が聞こえた。

「また、緊張してんのか？ 隆司」

隆司は慌てて後ろを振り返る。

「びっくりするじゃねーかよ、創太」

創太とは、この高校で唯一の中学校からの友達である。

「あいかわらずだな……すぐに緊張する体質は治らないのか？」

今、創太が言ったとおり隆司はちょっとしたことでも緊張する体質と
いうか、性格なのである。

「ちゃんと合格通知書持ってきたか？」

「朝、ちゃんと確認して持ってきたから大丈夫だと……あれっ！？」

「おいおい……どこかで落としたんじゃないのか？」

「い、いや校門の前でちゃんと確かめたはずなんだけど……」

この、天成高校は少し特殊な学校で、合格通知書を見してクラスを教えてもらったり、名札や学年証明書などをもらうという学校なのだ。

「もしかして、さっきここに行く途中で靴紐直した時にどこかに置いたかも・・・」

「行ってくる!!」

「どくに、置いたっけな……」

「加藤隆司さんですか？」

「え？」

「き、君は？」

隆司の目の前に自分の合格通知書が出された。

「よかったー……助かったよ。ありがとう。」

「いえいえ、こちらこそ♪」

「きれいだな……この子……制服に花がついてるから、俺と

一緒の新入生かな？・・・」

「入学式始まるんで、これで失礼しますね」

「俺も行かなきゃ!!」

そして、**隆司**は**体育館**へむかった……

現在

- - - - -

「初めて、優さんに会ったときどう思ったの？」

「なんと言ったらいいのかな？・・・ただ単に綺麗な女の子だなと・・・」

「そうなんだ・・・私も、学生のころの隆司に会ってみたいな」

「あの頃の俺はほんとうに臆病だったというか、ほんとにガキだった・・・」

「今はどうなの？」

「前よりは、大人になったと思う」

「その後の話も聞かせて」

「わかった。そして次に会ったのはクラス分けの時だ・・・」

続く・・・

第一話：思い出の始まり（後書き）

みなさん、こんな小説を読んでくれてありがとうございますm（
ー）m

ほんとに、初めての小説なので、おかしい表現などが多々あるかもしれないですが、よければ続編もよんであげてください^^；

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0461a/>

優のアルバム・・・

2010年10月11日23時57分発行